



息の合ったコーラスを披露する参加者たち

敬老の日にちなみ、市内の高齢者が一堂に会し、日ごろ親しんでいる歌や踊りなどを披露・鑑賞し合うことで、楽しみながら親睦を深める「第44回下妻市敬老福祉大会」が9月14日、市民文化会館で開催されました。

大会では、歌や踊りなど36演目もの芸能発表に、市内各地区から元気な高齢者563名が集まりました。合唱団のコール・フレンズ小野子が、復興支援ソングの「花は咲く」を合唱すると、観客席からも一緒に歌う声が聞こえてくるなど、ステージと観客席が一体となる場面が多く見受けられました。

合唱の発表を終えた70代の女性は「4月から月2回の練習でしたが、みんなでうまく歌えてよかった」と話が聞けました。

第44回下妻市敬老福祉大会

ともに長寿を祝い交流を深める

インド・ミゾラム州から来日した農業関連の研修生など15名が8月27日、「道の駅しもつま」の農産物直売所や納豆工場などを視察しました。

ミゾラム州域は山間部が大半を占め、交通が不便なことから、日本の「道の駅」のような地域の拠点となる施設をつくり、地元農産物や特産品の販売、情報発信の拠点として地域の発展につなげることを視野に、「道の駅しもつま」の施設や運営等を参考にしようと訪れました。

研修生からは、市場流通と直売所流通の違いや食品の衛生管理に関する質問が次々と出され、大塚駅長や市職員が熱心に対応していました。



野菜を手にとって鮮度などを確認するインドの研修生

インドでも「道の駅」をつくりたい

インド・ミゾラム州から農業関連研修生が「道の駅しもつま」を視察



豊やたいまつを持った白装束姿の若者が境内を走り回る

火の粉を浴びると火の災いを退けるといわれる炎の奇祭「タバンカ祭」が9月12日と14日、大宝八幡宮で行われました。境内には市内外からの参拝客やアマチュアカメラマンが集まり、豊やたいまつを持った白装束の若者が走り回ると、子どもたちは歓声をあげながら逃げ回っていました。

この祭りは、約640年前に敷地内で起きた火災を豊と鍋蓋で消し止めたという故事を戯曲化した祭りとして受け継がれています。

笠間市から訪れた60代の女性は「火が近いので怖いけど、なぜか引き込まれる祭りですね」と興奮気味に話してくれました。

炎の舞い、荒々しく

大宝八幡宮の火祭り「タバンカ祭」



収穫の秋を迎え、今年も豊作となった下妻の米。収穫したばかりの下妻産新米を食卓に届けようと市内大園木の「やすらぎの里しもつま」で9月20日と21日、「下妻産新米まつり」が開催されました。主催は、地域ブランド米の確立を目指すJA常総ひかりと下妻市担い手育成総合支援協議会。

会場では、「コシヒカリ」と「ミルクQueen」の炊きたてがそれぞれ試食で提供され、食べ比べた新米が、その場で1キロ単位の希望量で買えるとあって「つきたて販売」が人気を集めていました。新米ボン菓子の無料配布や大抽選会も行われ、市内外から訪れた多数の家族連れなどでにぎわいました。

埼玉県羽生市から夫婦で訪れた60代の女性は「普段は埼玉のお米を食べているけど、下妻産のお米は香りがよく、美味しいですね」と話が聞けました。

下妻の新米、召し上がれ

下妻産新米まつり



下妻産の新米を試食する来場者



活気ある未来や人材について熱く語るパネラー（左から玉澤氏、稲葉市長、杉田会長）

活気に満ちた茨城の創造を目指して

日本青年会議所第43回茨城ブロック大会 集まれ! IBARAKI POWAR! みんなで“輪っしょい”

日本青年会議所関東地区茨城ブロック協議会は9月15日、市民文化会館、下妻公民館、総合体育館の3施設を会場に「第43回茨城ブロック大会」を開催しました。

3つのフォーラムが同時に開催された午前の部では、防衛庁長官や農林水産大臣を務めた玉澤徳一郎氏による「意気あふれる人材」についての講演後に、稲葉本治・下妻市長や杉田周平・茨城ブロック協議会長がパネラーとして加わり、「活気あふれる未来」を題材にディスカッションなどが行われました。

また、午後のメインフォーラムでは、アテネ五輪と北京五輪野球の日本代表キャプテンを務めた元プロ野球選手の宮本慎也氏が講師のトークショーに青年会議所メンバーのほか、近隣から少年野球の選手や関係者など約500人が参加しました。

司会者から「国際舞台で活躍するためには何が必要か」の問いに、「一流選手ほど、健康管理や試合に臨む際に準備に余念がない」などと答えた宮本選手。トークショーに参加した少年野球の選手たちには、バッティングや守備のワンポイント指導を行い、野球を楽しむこと、特にキャッチボールの大切さを熱く伝えていました。

最後には、宮本選手のサイン入りグッズが当たる抽選会が行われ、当選の座席番号が呼び上げるたびに、会場からは歓喜の声があがっていました。



稲葉市長に今シーズンの活躍を誓う「つくばロボッツ」（左から古原社長、稲葉市長、木村選手）

平成25年7月につくば市に誕生した日本の男子プロバスケットチーム「つくばロボッツ」の古原賢治社長と同チームで活躍する下妻市出身の木村蓮選手（下妻乙・本宿、22歳）が9月22日、稲葉市長を表敬訪問しました。

古原社長は「2020年の東京オリンピックを目指す子どもたちに本物のプレーを見てほしい。子どもたちへの出張クリニックなど地域に密着した活動や茨城代表として茨城ブランド向上に貢献していきたい」などと今シーズンの活躍を誓いました。

「ホームのつくばカピオの試合では、観客席を満員にして、スピードあるプレーで観客を魅了したい」と抱負を語る木村選手に、稲葉市長は「下妻を宣伝するプレーヤーとして頑張ってください」と激励しました。

プロバスケットで茨城を盛り上げます

男子プロバスケットチーム「つくばロボッツ」表敬訪問



宮本氏の熱心なバッティング指導に真剣な表情の少年野球選手



オスマン・サンコン氏による講演では、もったいない精神などの日本の美德が伝えられました

有料広告欄

有料広告欄

有料広告欄

有料広告欄